

想定地震の最大震度分布図

琵琶湖西岸断層帯、南海トラフ地震

地震は、いつ、どこで発生するかわからないのが現実です。

国の地震調査研究推進本部地震調査委員会の令和2年(2020年)1月1日を基準日とした調査によると、琵琶湖西岸断層帯北部で地震が発生した場合には、マグニチュード7.1程度の地震が発生すると推定され、今後30年以内の地震発生確率は、1%~3%であり、また、南海トラフ地震が発生した場合は、マグニチュード8~9クラスの地震が発生すると推定され、今後30年以内の地震発生確率が70%~80%と、非常に高い確率となっています。

下の表は、「湖南市で想定される地震被害」と「湖南市における想定地震最大震度」を表したものです。

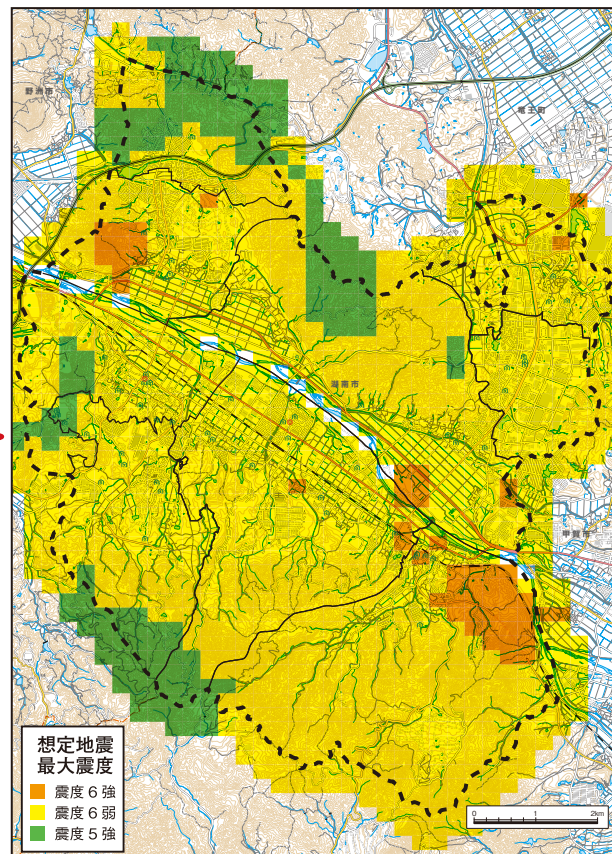
湖南市で想定される地震被害

被害想定項目				琵琶湖西岸断層帯	南海トラフ地震
マグニチュード(Mw:モーメントマグニチュード)				7.8	(9.0)
本市区域内の想定最大震度				6強	6強
被害種別・項目・時期				単位	
建物被害	全壊棟数		棟	184	254
	半壊棟数			1,421	2,151
人的被害	死者数	冬 深夜	人	10	10
避難者	全避難者 (在宅避難者含む)	1週間後	人	3,636	3,940

注意事項

この震度分布図で表示した震度は、地震の規模や震源の距離から予測した平均的な揺れの大きさであり、地震の発生の仕方によっては、揺れがこれよりも強くなったり、弱くなったりすることがあります。

市民の皆様には、「起こりうる大地震」に備え、地震が発生した際は、まずは自分の身を守ること、そして住宅の耐震化・家具の転倒防止・生活必需品の備蓄等の防災対策に取り組んでいただきますようお願いします。



地震対策

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

3分

5分

10分
数時間
3日

最初の大きな揺れは約1分間

- 身の安全を確保する

揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦の落下・ブロック塀の倒壊・自動販売機等の転倒に注意

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう ●要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないかの確認 ●ケガ人はいないか
- 出火防止初期消火 ●消火器を使う ●余震に注意
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーをおろす・ガスの元栓を閉める

ラジオなどで正しい情報を

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認 ●デマにまどわされないように
- 避難時に車は極力使用しない ●電話は緊急連絡を優先する

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食糧は蓄えているものでまかなう 最低限3日間(推奨7日間)の飲料水と食糧の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ●壊れた家に入らない
- 近くの人救出・救護

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護する。
- 建物から離れ、安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

山沿い・谷沿い

- 地震により土砂災害が発生するおそれがあるため、安全な場所へ避難する。

